

問

完全学校週5日制の下、各学校が「特色ある教育」を展開し、新学習指導要領は、子どもたちに基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ、自ら学び、自ら考える力など「生きる力」を育むことを狙いとしている。

完全学校週5日制は、子どもたちの生活にゆとりができ、親子のふれあいが親密になったなど良い面もあるが、これを総合的に判断したら、果たしてどれだけの効果があるのかに対しては疑問を感じる。

①現在の学習指導要領では、教育内容がかなり削減されているが、子どもたちの学力は低下していないか。また、学力面での多くの課題に対する現状分析と、学力向上対策としての土曜日の使い方についての方策はどう考えているのか。

②学習指導要領の一部改正に係わって、町内における各学校での「ゆとり教育」についての具体的な方策と現在までの成果について伺う。

③教員の質の向上対策として、①中教審の教員養成部

会での検討内容は、②免許更新制の検討及び方向性は、③教員の査定評価は、④教員の市民としての生活権の確保は、⑤教員の書類提出の多すぎが多忙の原因ではないか、⑥やる気のある先生をさらに認める環境は、⑦教員の他業界との交流が不足していないか、⑧教員採用の実情に問題はなにかについて伺う。

④学校長のマネジメント力の向上対策についての考えを伺う。

教員長

①独自の学力テストを行っていないので、具体的に数字で示すことはできない。

道教委では、「目の学力調査」を行い、学習の状況を把握し、その結果に基づき学習指導の改善・充実を図る考えである。

土曜補習については、教職員や保護者、地域住民に総合的な具体策を提示しながら実現の有無について検討することが必要であり、いろんな団体の人たちによる寺子屋的な体制づくりを地域の中でつくりたいという思いでいる。

ゆとり教育に求められる学力向上対策は

永井 繁樹 議員



朝の読書をする札内中学校の生徒

②ゆとり教育の取り組みとして、確かな学力を支える基礎学力を「読み・書き・計算」などの必須の基礎的知識技能とし、それらを見直し、生徒が確実に修得できるように、繰り返し学習やドリル学習、毎朝10分間を朝の読書、計算の時間、漢字の時間といった創意工夫を凝らし実践に取り組んでいる。

一方、総合的な学習の時間では、「画一から創意工夫へ」を合言葉に全体計画

を作成し、学校の自主性・自律性のもと、子どもの課題解決能力の育成に努力していたらいい。

各学校はさまざまな課題

やあい路を克服し、学習指導要領の大綱化、弾力化の趣旨を最大限に活かし、子どもたちの「生きる力」を育むため、創意に富む教育活動の実践に努めていることは大いに評価できるものと考えている。

③①②文部科学省は昨年10月に中教審に対し、⑦教員養成における専門大学院のあり方、④教員免許制度の改革、とりわけ教員免許更新制の導入について諮問

し、現在議論されている。

③道教委では、平成15年度から17年度の今年の3カ年

まで、「教員の評価に係る調査研究」を行っている。

④⑤町教委独自のアンケート調査の結果、帰宅のために学校を出る時間は、6時台が3割、7時台が2割、8時台以降が1割で、全体の6割が6時以降となっており、教材研究、授業準備、採点業務、成績評価、学校行事、職員会議以外の会議に加えて、少年団活動、部活動といった業務外業務いわゆるボランティア活動に当たるなど、その多忙さが

浮き彫りになった。

このため教育委員会では、毎月19日を「幕別教育の日」とし、この日を中心に「教職員ノー残業デー」として教職員にも家庭に帰ってもらうこととするともに、事務事業の見直しをすることとした。

⑥教職員提案制度を新たに導入し、教職員からの意見を聞くなど意識の高まりと意欲の向上、開かれた教育委員会も目指していく。

⑦道教委では、教員を民間企業や社会福祉施設などの学校以外の施設に派遣する課題研修など、ライフステージに即した体系的な研修を実施している。

⑧道教委では、教科等の指導法や生徒指導に対する理解度などに重点を置いた選考になるよう改善している。

④マネジメント向上のため、校長には教育理念を思い切って語ってほしいと思つている。幕別13校の校長については、力量、理念のもとに学校経営に当たっていると考えている。